

中部の未来創造大賞とは？

これからの「地域づくり」は、社会資本の整備だけでなく、その維持・活用や環境保全、その地域の持つ歴史と伝統への配慮などを総合的に考え推進していくことが不可欠です。また、平成20年に閣議決定された国土形成計画(全国計画)では「新たな公」を基軸とする地域づくりの視点が盛り込まれています。「中部の未来創造大賞」では、このような観点から、民間、行政の垣根を越えた幅広い分野で取り組まれているみなさまの活動を募り、表彰し、広く一般に紹介することによって、これからの新しい中部の「地域づくり」に役立てていきたいと考えています。

●第1～15回(平成12～26年度)の主な受賞活動

住民部門

熊野古道始神峠の整備・保存活動

始神峠を守る会



白馬山麓における積雪期の事故防止活動

特定非営利活動法人 ACT



“いい地域はいい学校から”
“いい学校はいい地域から”
～小学校を拠点とした地域づくり～

石榑の里コミュニティ



レールマウンテンバイク「Gattan Go!!」

特定非営利活動法人 神岡・町づくりネットワーク



魅力あるまちづくり

岡田ゆめみらい



企業・学校部門

2020年笠原の森プロジェクト

多治見市立笠原中学校



“夢を大地に”
アクションプログラム

静岡県立磐田農業高等学校



輝け、サンセット
(夕日が美しい丘)ナンバー1

阿南町立阿南第二中学校



富士山高原の酪農を
元気にする高校生の挑戦

静岡県立富岳館高等学校



地域を守る中学生
～自分たちの町は自分たちで守る～

岐阜市立三輪中学校



行政部門

わしら自慢の公園じゃ
まあいっぺん見にきておくれ
～働く元気高齢者 藤原町役場



里山に生きる
牧田保育園

上石津町役場



うだつの上がる町並みを
生かしたまちづくり

美濃市建設部都市整備課



三島市街中が
せせらぎ事業

静岡県三島市



八穂環境学習教室

海部地区環境事務組合
八穂クリーンセンター



FUTURE CREATION 2015
中部の未来創造大賞

主催/中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞については
右記のホームページをご覧ください。

▶▶▶ <http://www.cbr.mlit.go.jp/mirai/>

中部の未来創造大賞推進協議会事務局

国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課 — TEL(052)953-8127

一般社団法人 中部地域づくり協会 業務部 — TEL(052)962-9455

mirai@cck.or.jp

第16回 中部の未来創造大賞

FUTURE CREATION 2015



第16回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進しようとするものです。第16回目にあたる今回は、3部門で26件の応募をいただきました。表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件が選考されました。本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■募集部門



住民部門

個人やNPOなどの民間団体など、一般住民からの応募を対象



企業・学校部門

企業、学校、公益法人などからの応募を対象



行政部門

行政機関(国及び地方公共団体、公団・公社を含む)からの応募を対象



地方再生
～自分と未来は変えられる～



和みの散歩道の会
～高架下空間を活用した地域結び～



「丸子を、自分たちで住みやすい、良いまちにつくろう」がスローガン!
～地域協働の新たなまちづくり～



未来の三保文化を守る地域づくり
～松葉を活用した循環型松原共生プロジェクト～

CONTENTS

第16回「中部の未来創造大賞」について……………1

大賞

[住民部門]……………3
和みの散歩道の会
～高架下空間を活用した地域結び～

優秀賞・中部経済連合会賞 ※同時受賞

[企業・学校部門]……………5
未来の三保文化を守る地域づくり
～松葉を活用した循環型松原共生プロジェクト～

優秀賞・中日新聞社賞 ※同時受賞

[企業・学校部門]……………7
地方再生 ～自分と未来は変えられる～

優秀賞

[住民部門]……………9
「丸子を、自分たちで住みやすい、
良いまちにつくろう」がスローガン!
～地域協働の新たなまちづくり～

選考を終えて(表彰委員より)……………10

第1回～15回の主な受賞活動……………11

なごさんぽみち 和みの散歩道の会 ～高架下空間を活用した地域結び～



なごさんぽみち
和みの散歩道の会

〒464-0052 名古屋市千種区田代町字四観音道西14-4
TEL 052-711-8415



当地域は、都心に近い住宅街でありながら、緑が多く自然豊かで、閑静で、住環境に恵まれていましたが、平成25年5月に高架式の都市計画道路が開通し、環境が一変しました。道路の建設に当たっては、行政と地域住民の対立がありましたが、高架下の整備にあたっては、名古屋市と住民との協働により魅力的な散歩道の整備がされたことで信頼関係を回復させました。このような背景から、この散歩道を地域住民の“健康・文化・芸術”交流の場として発展させる取り組みを行っています。

【具体的な活動内容】

- ・年間を通してよく手入れのされた花壇には緑や美しい花木を飾り、市民に愛される憩いの場になっています。
- ・高架式道路の構造体、コンクリート擁壁をバックに作品展示や各種コンサート等のイベントを行うなど、高架下としては他に類をみない魅力ある当空間の存在を知ってもらったり、多くの人々の交流をはかったりして、散歩道として身近なものに感じてもらう取り組みを行っています。

「ザ・和みの散歩道祭」春秋開催

- ①コンサート：吹奏楽、ブラスバンド、ジャズバンド、オカリナ、バンジョー、ギター等演奏
- ②アート展：会員(220名)による工芸・絵画・書・写真等の展示、大学生によるパフォーマンス
- ③ワークショップ：親子でつくる(段ボール)マイマイハウス、野点、子ども茶道教室、楽しい似顔絵、気功太極拳の演武、大学生によるラジオライブ放送等



アート展 会員の写真作品



コンサート 高架下のオカリナ演奏



親子で作るマイマイハウス

未来の三保文化を守る地域づくり ～松葉を活用した循環型松原共生プロジェクト～



静岡農業高等学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目1-1
TEL 054-261-0111
URL <http://sizuno.terakoya.tv/>



三保松原は平成25年度、富士山構成資産として世界文化遺産に登録され、その美しさから日本新三景・日本三大松原のひとつとされています。

しかし、地域では景観を保つため松葉が多く剪定され、松葉の廃棄にかかる費用が三保地域の大きな負担になっています。また、枯れ松葉による土壌の富栄養化や、車の排気ガス、振動などが原因で松枯れが進み5万本近くあったとされる松が3万5千本にまで減少するなど、問題になっています。

そこで学校で学んだ食品化学・食品製造の知識を応用的に活用し、剪定された松葉や、落ちた松葉を有効活用する取り組みを行っています。

開発した商品を三保松原で販売し、現状を訴える事で松原保全意識が高まり、地域全体が自主的に松葉を拾うようになるのではないかと考え、循環型サイクルを作り出すことで、地域活性や松原保全を行う事を目的としています。

【具体的な活動内容】

- ・ 行政が剪定した松葉の引き取りや、NPOと共同で実施した清掃活動により青松葉・枯松葉を回収し、活用方法を模索しました。
- ・ 基礎研究により「ケルセチンの含有量」「抗酸化作用」「松葉とお茶の抗酸化力相乗効果」「抗菌作用」「血管拡張作用」など、松葉の効能を発見しました。
- ・ 企業との共同開発により、青松葉からは「松葉茶」「松葉醤油」、枯松葉からは入浴料などの商品開発を行いました。
- ・ 経済効果や、地元住民の健康増進などを考え、開発した商品を三保松原で手売り販売を行いました。収益の10%を三保地域振興資金として保全活動に活用しています。
- ・ 保全活動では観光客への足湯ノベルティーの配布や、小学校での出前授業足湯イベントなどにより保全意識の啓発活動をしています。



松葉の成分を調べる実験の様子



松葉商品販売の様子



松原保全活動の様子



岐阜県立加茂農林高等学校

〒505-0027 岐阜県美濃加茂市本郷町3丁目3番13号
TEL 0574-26-1239
URL <http://school.gifu-net.ed.jp/kamo-ahs>

岐阜県美濃加茂市山之上町には多くの果樹農家があり、今でも里山の原風景が残る素晴らしい所です。しかし、住民の高齢化や鳥獣による農作物被害などにより、耕作放棄地や荒れた竹林などの増加が目立ち始めました。そこで、その地域の課題の1つである耕作放棄地にスポットを当て、様々な里山の管理方法を提案し続けることで、少しでも地域の里山環境を健全な状態に保てたらと考えて活動しています。また、地元の小学生にあらためて地域の自然の素晴らしさを伝えることで、自分達が暮らす里山環境を大切に思い、ひいては地域の里山保全に係わる人材の育成にまでつなげることが、このプロジェクトの最終的なねらいです。

【具体的な活動内容】

・ポップコーンの栽培

「耕作放棄地を活用してポップコーンの栽培を行い、国産物の豆を安定供給することで、日本中の耕作放棄地を減らそう」という、壮大なスケールのプロジェクトです。賛同して頂いた大手ポップコーン販売企業とコラボし、国産の豆を使って作った、プレミアムなポップコーンの販売を今年9月に行うため、現在地元の企業などと連携し、約2.5反の畑にてポップコーンの栽培を行っています。(目標生産量は1トン)

・ホンモロコの養殖

元々私達が、休耕田を活用してドジョウの養殖を行っている事を聞きつけた団体から、「一緒にホンモロコの養殖をしてほしい」という依頼を受け、今年度から本格的に活動を開始しています。現在私達は、二つの田んぼにて約2万匹のホンモロコの養殖を行っています。その養殖を成功させる上でのいくつかの課題を解決するため、様々なアイデアをみんなで考えて実践中です。また、地元小学生に出前授業を行うことで、田んぼが持つ無限の可能性を伝えたいと考えています。



ポップコーンの収穫



ポップコーンの販売



ポップコーンの栽培



トウモロコシの残渣はヤギのエサに活用



休耕田を活用したホンモロコの養殖や米の栽培

「丸子を、自分たちで住みやすい、
良いまちにつくろう」がスローガン！
～地域協働の新たなまちづくり～



NPO法人丸子まちづくり協議会

〒421-0103 静岡県静岡市駿河区丸子三丁目7-9
TEL 054-259-2311
URL <http://mariko-mk.com/>



これまで静岡市駿河区丸子地区においては、自治会連合会、老人クラブ連合会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、PTA、体育振興会、朝市の会等々の各種団体により、個々の活動が行われてきました。そこで、これらの団体に横の連携を持たせ、より効果的に、「赤ちゃんからお年寄りまでみんなが住みやすい地域」を実現するため、平成23年4月、「丸子まちづくり協議会」を設立しました。

協議会は9つの部門（観光、環境、福祉、防災、体育、社会教育、交通、防犯、広報）によって構成され、各部門が協働して魅力あるまちづくりに関する事業を行っています。これらの事業は、協議会が平成26年度に策定した「丸子ビジョン」に示す丸子地域のあるべき姿に向けた戦略に沿って行われ、各事業が連携した、新たなまちづくりのあり方として活動しています。

【具体的な活動内容】

- ・ 丸子の地域活性化を目的に、2峠6宿を観光資源として活用した「丸子宿場まつり」を開催。
- ・ 生活・自然環境の保全を目的に、耕作放棄地の解消に向けた取組の実施。具体的には、耕作放棄地を利用して、そばの種まきからそば打ちまでの一連の作業の体験実施や、小学生親子250人を対象に米の田植え、稲刈りを実施し、将来の農業の担い手確保に資する。
- ・ 南海トラフ巨大地震への対応として、発災時の地域の情報伝達網として「アマチュア無線100名ネットワーク」の整備を推進。
- ・ 七夕豪雨から40年をむかえ、丸子地域住民400名に参加頂き、「水防啓発講演会」を実施。
- ・ 地域の広報誌「丸子カフェ」を年4回、丸子地区の全戸に配布し、地域づくりに関連した情報発信を実施。
- ・ 赤ちゃんが誕生した家庭を自治会長が記念品を持って訪問し、その後の子育てを地域全体で応援するきっかけとする。
- ・ 足が不自由な高齢者等の病院や買い物時の外出支援のため、協議会所有の福祉車両により送迎を実施。



丸子宿場まつり



耕作放棄地にさせない！ ～小学生の親子250人が田植えを実施～

選考を終えて
(表彰委員より)

委員長

名古屋工業大学名誉教授

山本 幸司 やまもと こうし

様々な課題を抱えながら、それぞれの地域の社会・環境問題へ真摯に取り組んでおられることに敬意を表します。またシニア世代はもちろんのこと、大学生や高校生が活動主体として頑張っておられることに「中部の未来」を感じることができ、心強く思います。

副委員長

三重大学名誉教授

渡邊 悌爾 わたなべ ていじ

応募数が減少気味ではあるが、最終選考まで残った活動は、地域貢献を願う知恵と情熱による創造の賜物と言える。受賞される活動は地方創生に向けて草の根的な連携、協働の良きケースワークであり、更なる持続的発展を期待したい。

委員

駿府静岡歴史楽会事務局代表

竹内 礼子 たけうち れいこ

それぞれの活動団体が、地域の素材を生かした個性的な活動をされていると感じた。地域住民による新しいコミュニティづくりへの挑戦も印象的だった。シニアの皆さんが地域を子供たちに伝えていく活動や、高校生が専門知識を学んで実践している活動も応援したい。



委員

名古屋大学大学院環境学研究科助教

高取 千佳 たかとり ちか

各団体とも、立場・テーマは多様ながら、地域を積極的に巻き込みより良くしていこう、と意気込み溢れる姿に、感銘を受けました。今後、持続的に活動を展開されるには、さらなる後継者の発掘・育成や外部の人々との循環が必要となることと存じます。ますますのご発展・深化を祈念しております。

委員

中田新聞社事業局長

加藤 宏幸 かとう ひろゆき

学生主体で活動する候補が多く見られ、その新しい視点に大きな期待と感動があった。「中部の未来」を担うべき彼らの活動が「地域」をもっと活性化させる起爆剤となり、ますます発展することを期待したい。

委員

(一社)中部経済連合会常務理事

三浦 司之 みうら もりゆき

各団体ともメンバーが活き活きと活動し、それぞれの地域に貢献されている姿が印象的でした。また、各種団体同士の連携や、産学官の連携も奏功しており、将来に向けた地域の取り組みとして大いに可能性を感じました。今後とも、各団体が継続的に活動し、さらなる貢献を果たされますよう祈念いたします。

委員

中部地方整備局企画部長

森山 誠二 もりやま せいじ

応募頂いた活動については、地域住民と学生、企業などが垣根を越えて協働し、地域に活力を生み出す取り組みが多く見られました。とりわけ少子高齢化が進む中で、次世代を担う若者たちが積極的に地域と係わる姿を拝見し、「中部の未来」を創造する力が育っていることを心強く感じました。各団体のますますの発展を期待します。

中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局

長野県

岐阜県

静岡県

愛知県

三重県

静岡市

浜松市

名古屋市

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

名古屋高速道路公社

独立行政法人
水資源機構 中部支社

地方共同法人
日本下水道事業団 東海総合事務所

独立行政法人
都市再生機構 中部支社

公益社団法人
土木学会 中部支部

一般社団法人
中部地域づくり協会

一般社団法人
日本建設業連合会 中部支部

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

一般社団法人
長野県建設業協会

一般社団法人
岐阜県建設業協会

一般社団法人
静岡県建設業協会

一般社団法人
愛知県建設業協会

一般社団法人
三重県建設業協会

株式会社中日新聞社

後援／一般社団法人
中部経済連合会